



木村 温彦(きむら 5S実践舎 代表)

〒373-0061 群馬県太田市烏山上町1066-60

TEL・FAX 0276-37-1673 e-mail kim5sjissen@ybb.ne.jp

## 5Sの違いに驚く… ～菊地歯車の巻

菊地歯車は1940年に、現代表の父親が「機械の時代が来る」と考え、織物のかたわらで歯車の生産を始めたのがスタートである。戦争中の鉄供出で織物機械が解体されたため、供出を免れた歯車加工機(歯切り盤)での歯車生産に特化していった。

その後、60年以上の加工技術の蓄積を背景に、多種多様な顧客の要望に対応するコンビニエンス営業をモットーに、着実に業容を拡大してきた。本社に隣接した5工場は、ブランク加工から組立・出荷までの社内一貫生産が可能である。

同社の顧客は、自動車・油圧機器・建設機械・産業機械・事務機器・印刷機械・医療機器・航空宇宙・林業機械などの約300社にわたり、5,000種類の歯車を生産している。

人の面では、とちぎマイスター5名、高度熟練作業員3名、

一級技能士40名、二級技能士28名を擁しており、「モノづくりは人づくり」をモットーに推し進めてきた結果が如実に物語られている。従業員数は101名である。

### 5Sとの出会い

同社では、代表を筆頭に、会社を挙げて地域貢献が活発である。もちろん、地場産センターに対しても協力度が高い。

一昨年の2月に、筆者がセンターに赴任して間もなく、センターの進めている新商品開発を通して、中川原製造部長と面識ができた。筆者は、センターの新しい事業として5Sを立ち上げ、数社に理解を得たところで、5Sネットワーク会議への参加を広く出捐団体に呼びかけた。

その時点で、製造部長と社長ジュニアの菊地専務がさっそく、参加され、専務に会議の副会長

をお願いした。

そのネットワーク会議で5Sの重要性を改めて認識した2人の決意によって、2004年6月キックオフに至った。

### 5Sの再認識…

#### 前の5Sとまったく違うぞ

キックオフを経て、さっそく、整理から活動に入った。膝から上、肩から下にモノを置きましよう、床の直置き禁止、壁ぎわすっきり、機械の上にはモノを置かない、などの観点からパトロールで指摘しただけでも、工場が変わってきた。不要な掲示物は、いったん全部外しましよう、すべてのものに台車を…などと理想の指導をパトロールで述べるうちに、本人たちが工場の中の在庫が多いのに気がついたり、とにかくまだまだムダが多いことの認識に至った。

やがて今までの5Sとは違うぞ…ということになっていった。

#### 第4工場をモデル職場に!

5Sを始める前は、第4工場は一番汚い職場として評価されていた。しかし、3カ月を過ぎた頃から本社工場と肩を並べ、今では逆転している。

今泉係長をはじめとする第4

本社工場



機械周りの整頓に着手しました



技能士資格一覧



工場の全員がキックオフとともに発奮し、機械の周りがかたづき、通路がとれるようになった。ペンキを塗り、白線を引き、工具の手元化も開始された。

その勢いを見てまず第4工場に力を集中してモデル工場をつくり上げよう、ということになり、その方向で歩き出している。もちろん、他の工場も並行して自分たちのできることは、自分たちでやっ払いこう、という活動である。

### 物流改革

おもしろい現象がある。機械周りの整理をしていくと、自然とその周辺の在庫量が減ってくる。そしてそれが受け入れ倉庫へとつながり、やがては協力工場にまで届くことになる。これを高度化していくと、ジャスト・イン・タイムに近づいていくことになる。難しい管理を入れるのではなく、このように当たり前のことを地道にやるだけで、難しいと思っていた

ことができるようになってくる。同社の少なからぬ従業員が、このことに気がついてきた。実践はこれからだが、大きな楽しみになっている。

### 筆者の視点

菊地歯車においても、過去、5Sを採り入れたことがある。今回の5Sと比較してみると、整理・整列・清掃の3Sと受け止め、ある程度、きれいになったところで止まってしまったようである。そこで今回の5Sで理解してもらったことは、菊地歯車のように、優良企業と言われるところで、見方を変えると、まだまだ変化が可能である、ということ。技術的には超一流企業をつくってきた同社に、5Sは新しいマネジメントを吹き込もうとしている。技術とマネジメントがスパイラルしながら好影響をもたらすと、さらに格段と強い企業が期待できる。技術が先かマネジメントが先かは難しい判断だが、両方に目を向けることが肝要であろう。ただし、いずれも一朝一夕にはできないので、コツコツ精神が欠かせない。そして当然この活動には、これで終わりという時もない。

菊地歯車第4工場のみなさんです



### 専務のひと言

新しい5Sの展開で、眼からウロコが落ちたような気持ちです。改めて、業容の拡大に伴うマネジメントのやり方を垣間見たと思います。まだ、スタートしたばかりですが、あるべき姿はおぼろげながら見えてきたので、そこに向かって果敢に取り組んでいきます。

専務取締役 菊地 義典氏



栃木県南地域地場産業振興センター  
連絡先

〒326-0822 栃木県足利市田中町32-11  
TEL 0284-71-1141  
e-mail jibasan4@watv.ne.jp